

プール大好き!



7月18日
B&G海洋センター

祭 誕 生 治



▲色とりどりの花を捧げるファンの人たち

六月十九日。「桜桃忌」として多くのファンが太宰をしのんできたこの日は、太宰の生まれた日でもありません。没後五十年となった平成十年「桜桃忌」に区切りを付け、昨年からの「太宰治生誕祭」として太宰の生誕を祝う催しが和やかなムードの中で行われています。

芦野公園にある太宰治文学碑前には朝早くから多くの太宰ファンが訪れていました。金木女声合唱団「チェリーコール」による合唱曲「太宰治」と「走れメロス」が流れる中、太宰の長女、津島園子さんと鳴海町長が文学碑に献花。名川町のさくらんぼ娘がさくらんぼを捧げた後、集まった太宰ファンら二百人が色とりどりのバラやユリの花を次々と献花しました。



▲献花する津島園子さんと鳴海町長



生家に集う

献花終了後、太宰の生家、太宰治記念館「斜陽館」に場所を移し、生誕祭開会式と文化講演会が開催されました。詰め掛けたファンでいっぱいになった大広間では、はじめに、鳴海町長が「生誕祭として二年目を迎え、町内外において定着してきた。「斜陽館」の入館者も二十万人を超え、太宰の業績の素晴らしさを改めて実感するとともに、

太宰の魂 いつまでも

太 宰



▲発起人 小野正文さんが「太宰さん、思いっきり飲んでください」と献杯の発声

太宰治を語る会

金木町中央公民館で開催された「太宰を語る会」では、津島家にゆかりのある津島信雄さんや、太宰の子守りをしていた越野タケの孫、越野由美子さんも参加し、太宰にまつわる思い出話を披露。参加者たちも和やかに太宰について語り合っていました。



▲講演する相馬正一さん

後世に伝えていかななくてはならないと思っています」と式辞。続いて、津島園子さんが「太宰が生まれた家で生誕を祝っていただき遺族としてとてもうれしく思っています。太宰の作品は二十世紀を代表

する作品の一つに挙げられ、今でも若い方々に読まれ続けています。九年後の生誕百周年も皆さんと盛大に祝うことができればと思います」とあいさつしました。

この後、岐阜女子大学の相馬正一教授を講師に「太宰治の虚像と実像」と題した文化講演会が開かれ、相馬さんは「太宰は実際にあったことを上手に虚構することによって、あたかも真実であるかのように表現し、読者を感動させる作家であった」と語り、自らの体験をもとに太宰の作風について講演しました。

参加者募集

津軽半島交流アクセス 支援事業記念イベント

太宰を語る「津軽」の集い

◎参加費／無料
(ただし整理券が必要です)

◎募集人員／各100名

◎場所／斜陽館大広間

◎時間／17:30～

ホストとゲストの対談形式で太宰と津軽の関わり等について考える。

○参加申し込み、整理券のお問い合わせ
企画観光課 ☎53-2111

8月10日(木)

ゲスト／花田 俊典氏 ホスト／長野 隆氏

■花田俊典プロフィール

昭和25年福岡県生まれ。九州大学卒。九州大学大学院比較社会文化研究院教授。坂口安吾・太宰治に関する論文が多く、太宰治の小説「思ひ出」「魚服記」などについての詳しい本文注釈の仕事がある。福岡県在住。

8月20日(日)

ゲスト／東郷 克美氏 ホスト／長野 隆氏

■東郷克美プロフィール

昭和11年鹿児島県生まれ。早稲田大学教育学部国語国文学科卒業。成城大学文芸学部教授を経て、現在は早稲田大学教育学部教授。著書「異界の方へー鏡花の水脈」、編集「井伏鱒二全集」、編著書「作品論太宰治」「太宰治字典」。太宰研究の第一人者として知られる。東京都在住。

自転車乗車のルールを学ぶ

金木小学校

金木自動車学校で七月一日、金木小学校(校長 齋藤憲治)の三年生と父兄が参加して自転車安全教室「親子の集い」を行いました。

金木小学校では三年生になると自転車乗車が許可されることから、交通事故に遭わないようにマナーやルールを学ぶために、毎年安全教室を開催しています。

はじめに、自動車学校の職

員が指導にあたり、自転車のブレーキやライトがきちんと作動するか一つ一つ点検。自分の乗る自転車の安全を確認した後、道路に見立てた設定コースを実際に走行し、交差点や踏切での注意点や安全確認の仕方を学びました。

この後、事故の起きやすい状況を想定し、交通事故に遭わないためには何に注意すべきかを教わった児童たちは、自転車運転に対し改めて気を引き締め、事故の無い夏休みを誓っていました。



▶踏切で左右確認

川倉小学校PTA

廃品回収

川倉小学校PTA(会長 大佐賀尋嗣)が六月十八日早朝、学区内の廃品回収作業を行いました。

同PTAでは、地域の人々が協力してリサイクルに取り組み、収益を児童たちの活動費に役立てようと二年前から実施しており、この日は約二十五人が集まりました。学区内の各家庭から分別し



▶空きビンや古新聞を分別する父兄ら

て出された空き缶や空きビン、古新聞などの廃品を、父母らがトラックで一軒一軒回収。集められた廃品は小学校前に次々と運びこまれ、業者に引き渡されました。

年二回のペースで行われ、毎回古新聞約一〇t、空きビン六千本以上も集まる廃品回収作業。作業に参加した父母らは「今回は忙しい時期だったが、みんなの協力のおかげでいつもより多く集まったよ」などと話していました。

嘉瀬小緑の少年団 ケナフ栽培開始



▶植え付け器を使って苗を植える子どもたち

嘉瀬小学校緑の少年団(六年生二十八人)が七月十日、校庭わきの園地にケナフの苗を植えました。

ケナフは、木材に代わる製紙原料として注目され、他の植物より炭酸ガスを多く吸収することから地球温暖化防止に効果があるといわれています。

同緑の少年団では昨年、栽培したケナフで紙作り体験を行っており、紙作り体験をとおしてケナフの特性を学び、環境問題を考える良いきっかけとなったことから、今年も引き続きケナフ栽培が行われました。

児童たちは十日前から小さな容器に種を植え、あらかじめ一〇cmほどに育てたところで丁寧に移植を行いました。今年、ミニ農園ながらにビニールハウスを設置。特に簡易式の植え付け器を使った方法は、普段手にするのではない珍しい器具とあって注目を集めていました。

刈り取りの時期は十月下旬ころで、収穫後はケナフ紙の製作体験を予定しています。団員たちは「去年作ったハガキ大の紙よりも、もっと大きな紙作りに挑戦したい」と話し、ケナフの生長を楽しみにしていました。

津軽鉄道沿線ウォーク



▶足どりも軽く
中里へ向けていざ出発

五所川原歩け歩きの会（会長 藤本松夫）主催の「歩け歩け『津軽鉄道』沿線二十四km チャレンジウォーク」が六月二十四日、五所川原市や金木町、弘前市などから約五十人が参加して開催されました。二十四km踏破を目指し、履き慣れた靴と歩きやすい服装で集まった参加者たちは、家族が見守る中、午前七時三十分に五所川原駅前を出発。歩け歩きの会々員が初めての参加者にアドバイスしながら

津軽鉄道の線路に沿って五農高前、毘沙門、嘉瀬駅と進み、十時三十分に斜陽館へ到着しました。参加者たちは、津軽三味線会館で三味線演奏を聴きながらしばし休憩。そして、すでに十五kmも歩いてきたとは思えない軽い足取りで、津軽中里駅へ向けて出発して行きました。主催者の方々は「この津軽鉄道沿線コースを定着させ、さらに参加者を増やしたい。金木町にも組織づくりができればよう応援します」と話していました。

カーブミラー ピカピカに 金木郵便局



金木郵便局（局長 山中教義）の局員で組織されている全通信労組合金木分会の組合員たちが七月二日、泥やほこりなどで見えにくくなっているカーブミラーの清掃を行いました。

地域への貢献活動の一環として今回初めて行われたもので、山中局長をはじめとする局員と家族合わせて十六人が参加して作業にあたりました。三人づつのグループに分かれて町内に設置されてある約五

親子で作る手打ちそば、おいしいね

そば打ち会

喜良市小学校PTA研修

金木町中央公民館で六月十八日、喜良市小学校の児童、PTAあわせて約六十人が参加して「そば打ち会」を行いました。

この「そば打ち会」は子どもと一緒に楽しめる研修にしようと同校のPTA広報研修部（部長 工藤一男）が主催したもので、昨年の津軽金山



▶ぼくだって上手に
そばを切れるよ

焼づくりに続いて開催されました。

板柳町でそば栽培をしている佐々木俊司さんを講師に招き、製粉したばかりの香り高いそば粉を使って、小麦粉とそば粉の割合が二対八の「二八そば」と特製のつゆ作りに挑戦。エプロン姿の子どもたちは父母や先生たちと協力し、粉まみれになりながら生地作り。出来上がった生地を麺棒で延ばした後、そば切り専用の機械で切りそろえ、三時間余りかけて手打ちそばを完成させました。

早速、打ちたてのそばをゆで、ざるそばにして食べたところなかなかの味。「粉と水を合わせるの難しかったけれど、うまくできて良かった」「自分で作ったそばは特別おいしい」との声が上がり、作って楽しく、食べておいしい、大好評のそば打ち会でした。